

# 都市的地域における 耕作放棄の発生要因分析と解決への提言

## －「農林業センサス 2010」を用いた実証分析－

柳川菜摘（経済学部 3 年）

指導教員：直井道生

本論文で扱う耕作放棄地とは「所有している耕地のうち、過去 1 年以上作付けせず、しかもこの数年の間に再び作付する考えのない耕地」のことである。農地の多面的機能も失われ、何に転用されるわけでもないこのような土地が、年々増加し今や東京都の面積の約 3 倍にまで広がっている。通常耕作放棄地を議論する際には中山間と呼ばれる地域をモデルに置く場合が多い。では都市的地域における耕作放棄地はどうであろうか。都市的地域で耕作放棄地が発生する固有の要因はないのか。都市的地域で耕作放棄地を解消するにはどうすれば良いのか。

### 1. 本論文の目的と意義

本章では本論文において掲げる問題意識と目的を述べる。また先行研究を扱い本論文の位置づけを明らかにしておく。

### 2. 耕作放棄地の概要

まず耕作放棄地とは何なのかを定義する。また農林業センサス 2010 年版に用いられている農林統計用語についても幾つか触れる。そして耕作放棄地を取り巻く現状や、耕作放棄地が外部不経済になりうる要素を説明する。将来は更に耕作放棄地が増加する可能性を述べ、耕作放棄地が早々に取り掛からねばならない喫緊の課題であることを示す。

### 3. 都市農業と都市的地域における耕作放棄地

本章では都市的地域における耕作放棄を扱う意義について都市農業の利点と合わせて探っていく。

### 4. データと実証分析

本章では、農林統計上「都市的地域」に分類される「DID人口2万人」にあたる市町村を抽出し、「都市的地域」以外に分類される市町村との比較分析を行った。「農林業センサス2010年版」や「国勢調査」といったデータベースから得た「貸付耕地面積」等の様々な変数を用いて都市的地域における耕作放棄地の発生要因と、さらに耕作放棄地を減少させるためには何をすべきかを論じていく。

### 5. 終わりに

第4章で得た結果と今までの議論を振り返り、本論文に求められる今後の課題について述べる。